



警備員に緊急署名を受け取らせた傲慢な関西電力

「原発マネーの徹底究明と原子力からの撤退を求める」緊急署名は10月2日～15日までの2週間という短期間で4,795筆が集まりました。ネット署名には1400人を超える人からのコメントも寄せられています。署名に込められた思いを直接関電に伝えたいと、10月17日午後3時に約30名が関電本店前に集まりました。テレビ・新聞等の報道陣も来ていました。



しかし、署名を受け取りに出てきたのは警備会社の職員でした。市民側は、1週間前から面談できる部屋での提出を求めてきました。関電は理由もなく面談を拒み、当初「郵送で」と言うのを何回ものやり取りでやっと「手渡し」になったのです。署名は福井、関西、首都圏の18市民団体の要請で集め、署名提出に参加した市民は、原発立地の福井県高浜町民、関電株主、東電福島第一原発事故被災者などで、関電職員がでてきて当然です。金品受領という前代未聞の事件を引き起こしながら、署名受け取りにも出てこない関電の傲慢な姿勢は許せません。署名を受け取りに出てきた警備員は、「関電の総務から言われて受け取りに来ました」と言い、何とも言えない困惑した顔をしていました。

怒りを増した市民の力強い署名提出行動

関電本店前には、「ワイロよりハイロ」「ここがワイロの現場」等ののぼりや横断幕、プラカードを持ち寄り、元気な力強い署名提出行動になりました。

署名簿の束は福井県、京都府、滋賀県、兵庫県、大阪府から5名が、金品を受け取った20人全員の辞任や、稼働中の原発の運転停止、12月中旬の高浜4号の運転再開阻止、原発からの撤退表明を求め、署名に込められたそれぞれの思いを述べながら、順に警備員に手渡しました。

そして、福島からの避難者、関電株主から「深刻な事故を起こしながら全員無罪判決の東電、住民の安全よりお金と保身の関電、関電社員の皆さん恥ずかしくないですか」とアピールがありました。さらに「ワイロよりハイロ!」「原発マネー徹底究明!」「再稼働反対!」「原発廃炉!」等々の力強いコール。ジャンベや笛などの楽器と共に「やぎさんゆうびん」、「アンパンマンのマーチ」の替え歌の合唱など、賑やかに行いました。



1時間の行動の途中で、黒塗りの社用車が出て行きました。通行人や通行車もあり、その人たちにも届くように、事件の概要、関電の隠蔽体質・ガバナンスやコンプライアンスの欠如、調査委員会の欺瞞性、こんな会社に原発を運転させてはならないことなどを訴えました。

また、事件を徹底的に追究するために、関電を大阪地検に1,000人規模で告発することを準備しているとの紹介がありました。これは、このままでは終わらせない、原発廃炉に向け力を合わせて取り組んでいこうという決意表明にもなりました。